

# あなたの預金で 市民活動を支援します

## 「ろうきん」広報室 —— 山口郁子氏 —— インタビュー



### NPPO・NGOへの融資制度 「ろうきん」の使命と 新たな挑戦「NPOローン」

山口：「ろうきん」は五〇年前に労働者の組合から生まれました。NPPO・NGOへの融資制度としてのコンセプトと、最近の取り組みについてお話をください。

戦後、物も金もない時代に国が掲げた「経済発展（＝企業成長優先）」の影で、特に社会的地位が低い労働者は、普通の金融機関からお金が借りられず、高利貸しに苦しんでいた。そんな人々が「自分たちにも使える金融機関を」と考えて、「ろうきん」が生まれました。

銀行などの普通の金融機関と違って「ろうきん」は営利目的（利益を株主などに還元すること）ではなく、雇用される個人全ての福利厚生を向上することが目的でした。コンセプトは「相互扶

助（助け合い）・安心できる社会」ですね。（筆者注：「ろうきん」は利益を株主などに還元しない非営利（NPO）金融と呼ばれる。）今はさすがに労働者がお金を借りられないという時代ではなくなりましたが、世の中が不況で、雇用が守られなくなっていますし、高齢化も進んでいます。専門主婦では生活ができません、働くので子供がもてない、という悪循環もあります。行政は市民の福祉のニーズに追いついていません。「公」（行政）の果たす役割が不安定だから不安が蔓延してい

ます。一方で、若い人たちにとっては、ライフスタイルや価値観を大事にする「個」の時代が変わってきています。そういう時代こそ「個」が相互扶助する「ろうきん」の役割も大きいと思います。NPPO・NGOって、個人で解決できない社会問題に取組む存在です。NPPO・NGOのように「公」（行政）の限界に、「個」としての市民が自発的に取組むこと、これも「相互扶助・安心できる社会」だと思います。「ろうきん」とNPPO・NGOは使命がとて、も近いことに気がきました。



そこで、「ろうきん」では「NPOローン」として市民活動の立ち上げを支援する助成プログラムと活動して三年以上経った団体への融資制度を充実させています。

### NPPO・NGOの寄付制度 「預金者」の呼びかけ

鈴木：「ろうきん」のNPO支援ローンは山口さんが生みの親みたいなものですね。

「相互扶助・安心できる社会」という理念は、私たちASEED JAPANが目指す社会像でもあります。それでは、「ろうきん」にお金を預けている預金者に対しては、どのような取り組みをされていますでしょうか？

山口：NPO支援ローンといった金融機関の取り組みが、自分たちの暮らしのためであるという認識（個人）の生活のためにNPPO・NGOが「公」の機能を代替しているという認識（

を向上させるために、「社会貢献預金NPOサポーターズ」というものをスタートさせました。これは預金の利息の三〇％をNPO支援に寄付する仕組みです。まだまだ額は少なく、残高は七億円ほどですが。

### 「公」貯金の今後の展望 「ろうきん」の思いと 「公」の思い

鈴木：日本全体として、山口さんが考えるような金融機関は増えているのでしょうか？ また、山口さん個人としては、どのような思いを抱いていらっしゃるのでしょうか？

山口：着実に増えていると思います。市民金融とか非営利金融、

NPPOローンといった事例としては、多磨中央信用金庫や国民生活金庫があります。また北海道の市民バンクや神奈川の女性バンクなど、出資型の取り組みが増えています。私のアイデアとしては、「ろうきん」のような金融機関の機能（預金・融資など）と、市民が創設するファンドを組み合わせながら、NPPOのための債務保証制度のしくみなど作れないかと思っています。また、NPPOの育成プログラムなども必要でしょう。

私は女性にとって働きやすい職場という魅力から、「ろうきん」に就職しました。しかしその中で、五十年語られてきた「労働者のための福祉金融機関」が、今の時代に果たすべき役割は何だろう、と

考えました。そして、高齢社会における市民の新しい働き方、社会との関わり方について考えてい



くうちに、NPPOに出会ったんです。組織の中でこうした新しいテーマに取組むのは想像以上に大変ですが、やりがいがありますね。今では確信しています。「新しい社会合意」が必要なのだと。行政主導の社会（「公」の社会）が上手くいかない中で、新たな「公」の担い手として期待されているのは、様々な市民のセクターです。そういう市民セクターを資金面から支える私たちのような「市民サイドの金融機関」なのです。

鈴木：今後の展望や目標について語ってください。

山口：NPPO・NGO業界は混沌としてきていて、今後様々な波乱もあると思います。乱立していて、ひとくくりにはできませんし、「NPOローン」もまだまだ課題が山積しています。暗中模索中ですが、さまざまなメニューを充実していくことが目標です。何よりも、自分のような存在を、増やしていきたいですね。今は「ろうきん」の首都圏の一四八店舗をたった二人でカバーしている状態ですから（笑）。

### 「ろうきん」基本データ

労働金庫の略称。以前は各県ごとに県別の「ろうきん」があったが、再編が進み、現在は地方ごとに統合されている（例：関東の8件の労働金庫が集まって「中央ろうきん」に合併）。その上部組織として「ろうきん」（全国労働金庫教会）がある。

中央ろうきんの預貯金残高は約4兆円、貸出残高は約2.5兆円。その貸出金のうち約8割が組合員の「一般住宅資金」に、1.5割が「生活資金」となっている。首都圏にも148店舗ある（2003年3月末現在）。

### ろうきん

の機能代替しているという認識）

ます。市民金融とか非営利金融、